九重山の火山活動解説資料（平成 27 年８月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められませんが、GNSS[1)]連続観測によると、わずかに伸びの傾向が認められますので、今後の火山活動の推移に注意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル１、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○　８月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図１、図３-①③）

硫黄山付近の噴煙は白色で、高さは噴気孔上 80m以下で経過しました。

・地震や微動の発生状況（図３-②④）

火山性地震の月回数は７回（７月：７回）と少ない状態で経過しました。

火山性微動は 2006 年 10 月以降、観測されていません。

図１　九重山　噴煙の状況（８月 27 日、上野遠望カメラによる）

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/）や気象庁ホームページ（http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 27 年９月分）は平成 27 年 10 月８日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び大分県のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

・地殻変動の状況（図４、図５）

GNSS 連続観測では、坊ガツルー牧ノ戸峠、星生山北山腹－坊ガツル、星生山北山腹－直入Ａの基線で、2012 年頃からわずかに伸びの傾向が認められます。

1）GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

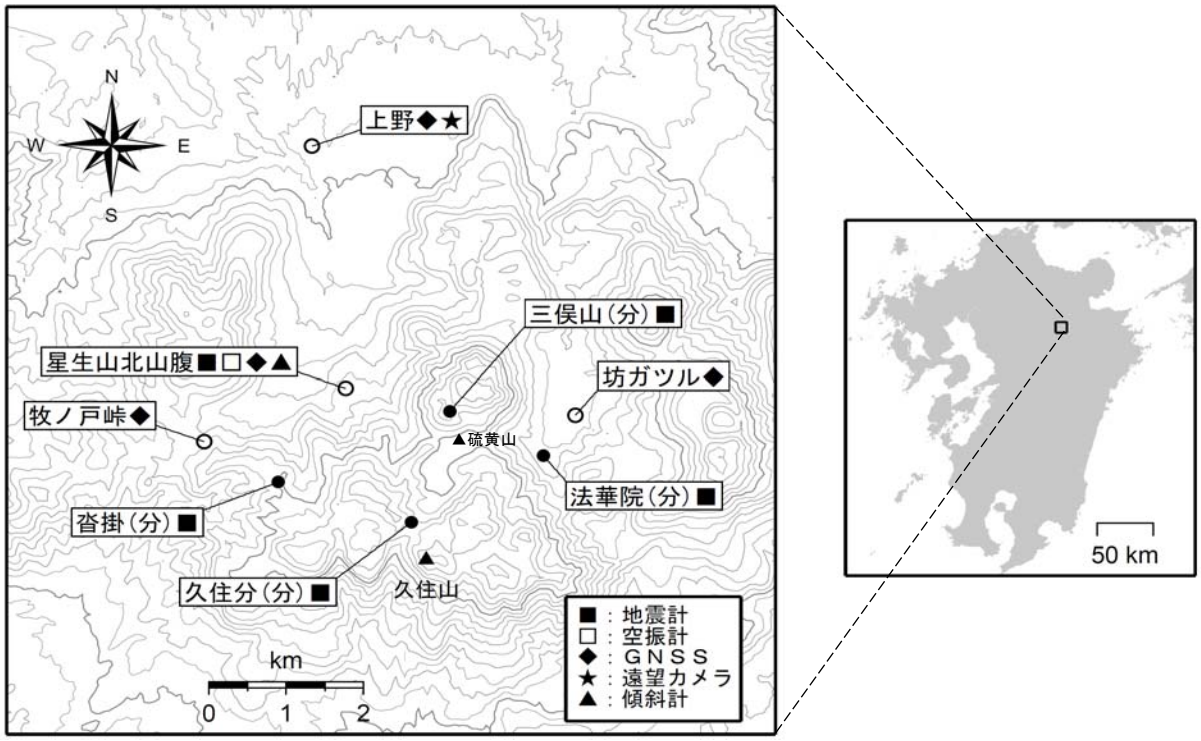

図２　九重山　観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（分）：大分県

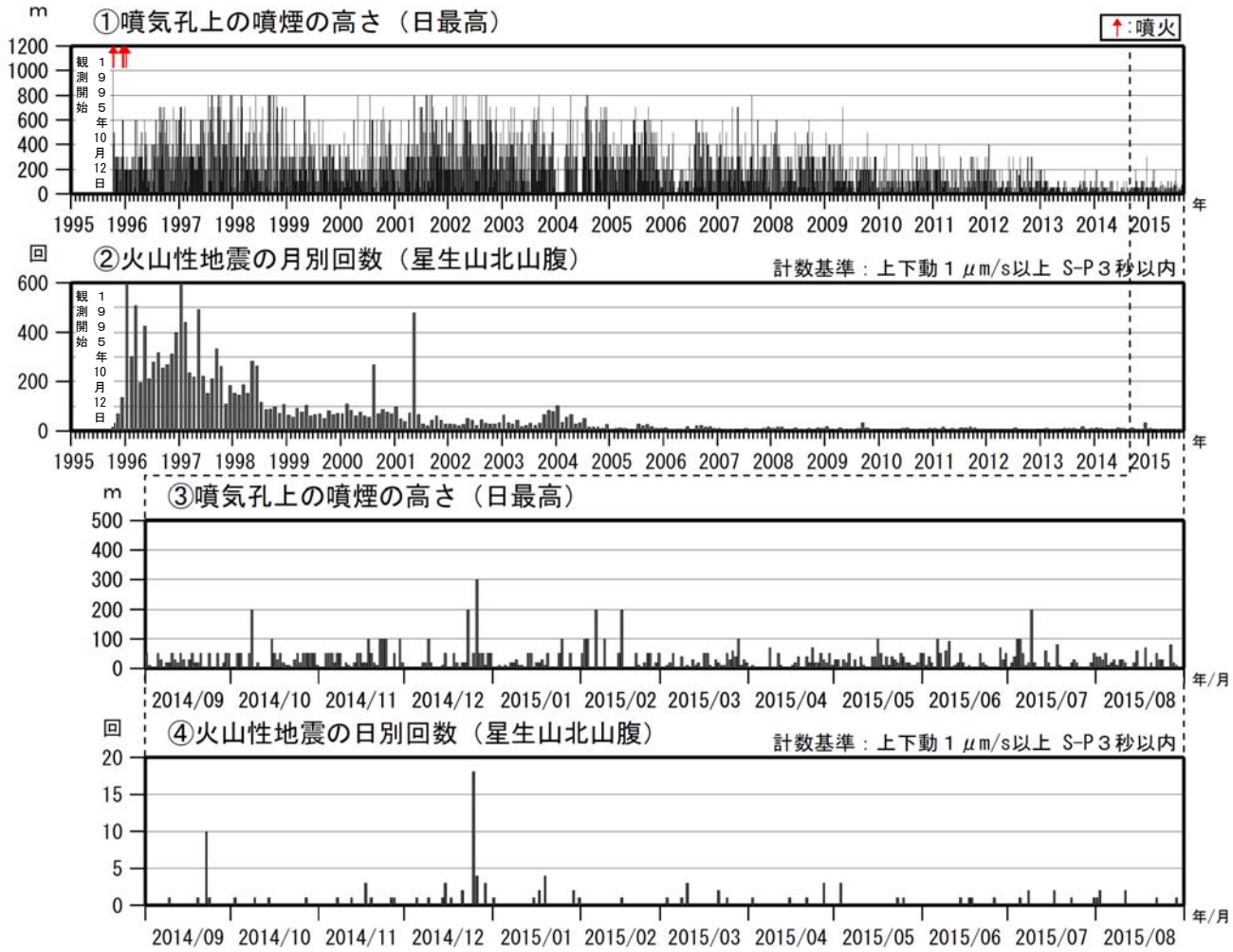

図３　九重山　火山活動経過図（1995 年 10 月～2015 年８月）

＜８月の状況＞

・硫黄山付近の噴煙は白色で、高さは噴気孔上 80m以下で経過しました。

・火山性地震の月回数は７回（７月：７回）と少ない状態で経過しました。

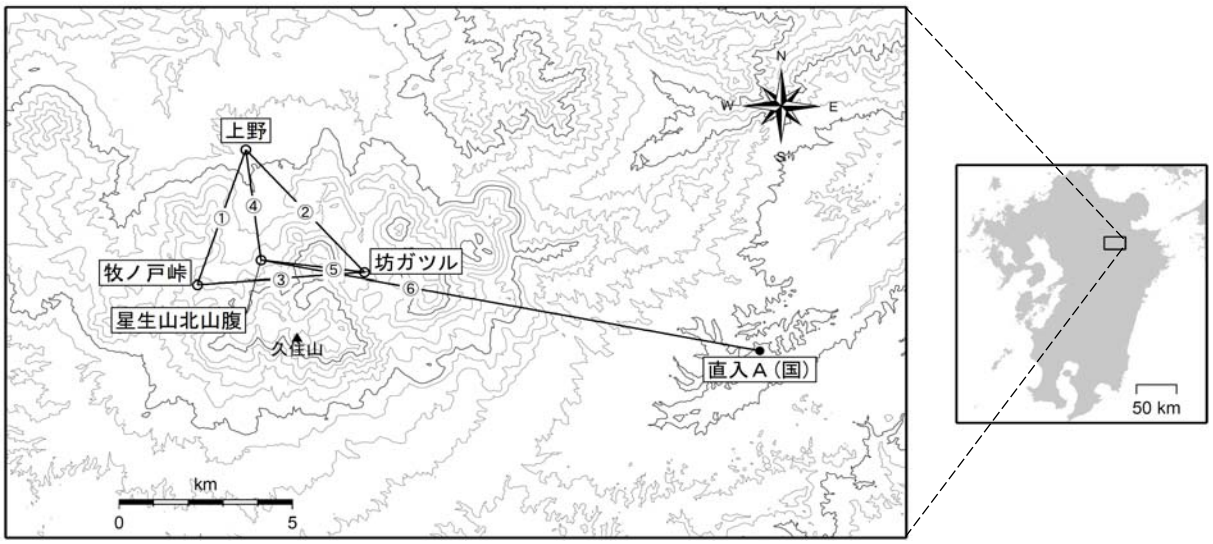

図４　九重山　GNSS 連続観測点と基線番号

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院

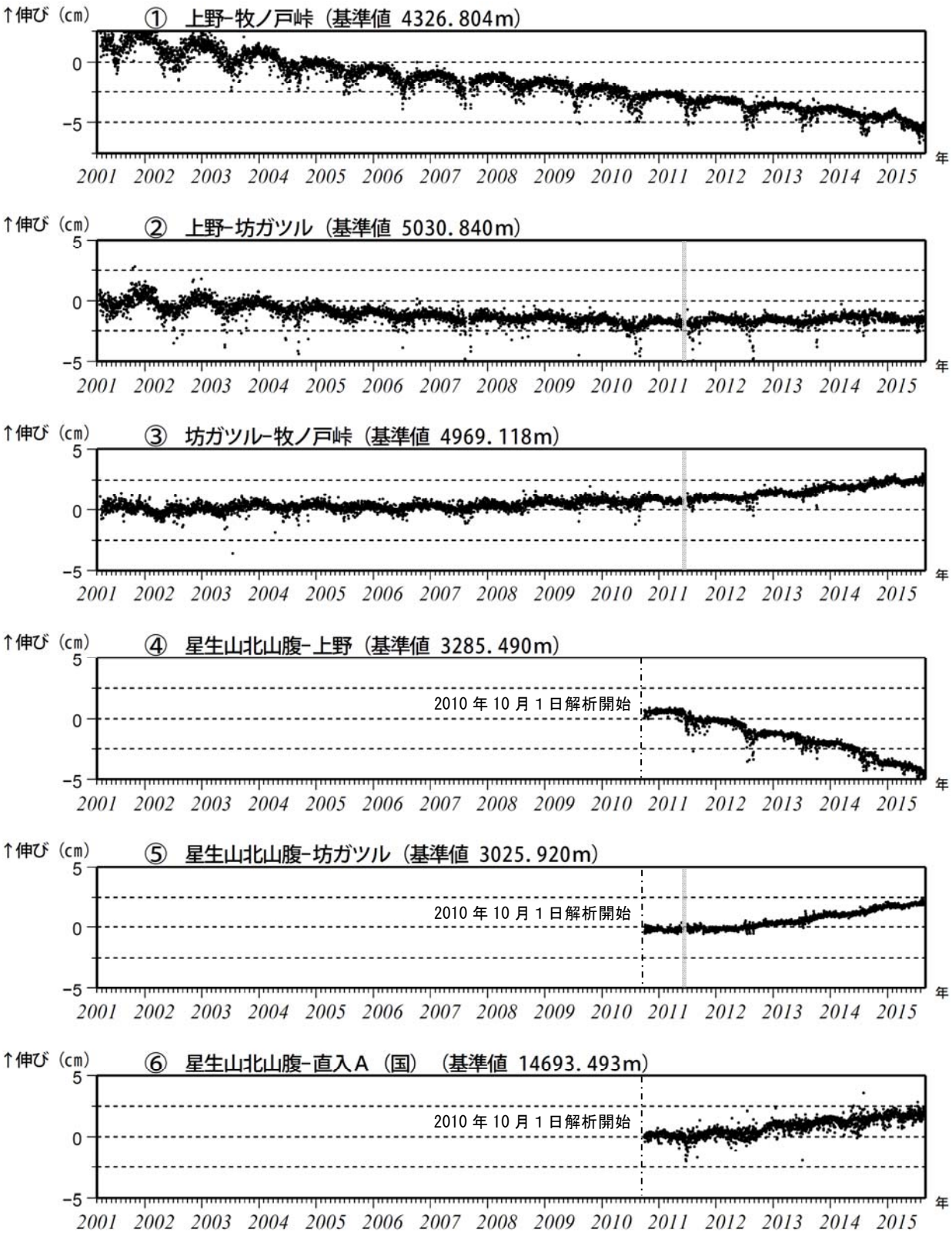

図５　九重山　GNSS 連続観測による基線長変化（2001 年３月～2015 年８月）

GNSS連続観測では、③坊ガツル－牧ノ戸峠、⑤星生山北山腹－坊ガツル、⑥星生山北山腹－直入Ａの基線で、2012 年頃からわずかに伸びの傾向が認められます。

これらの基線は図４の①～⑥に対応しています。
2010 年 10 月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています。
灰色部分は機器障害のため欠測を示しています。
（国）：国土地理院